

## 第 1 編

## 調布市の概況について

第 1 章. 市域の特性（地域特性） .....	3
1.1 位置, 地勢 .....	3
1.2 都市構造 .....	4
1.3 道路交通状況 .....	5
第 2 章. 人口の状況 .....	13
2.1 人口総数及び世帯総数 .....	13
2.2 年齢構造別人口 .....	14
2.3 人口の将来推計 .....	17
第 3 章. 財政の状況 .....	19
3.1 歳入・歳出 .....	19
3.2 財政指標の推移 .....	26
3.3 基金の積立及び残高の状況 .....	28
3.4 市債の状況 .....	30



## 第1章. 市域の特性（地域特性）

### 1.1 位置，地勢

#### (1) 市の位置

調布市は、東京都のほぼ中央、多摩地区の南東部に位置し、新宿副都心へ約15kmの距離に位置し、市の東は世田谷区と狛江市、北は三鷹市と小金井市、西は府中市、南は多摩川を挟んで稲城市、神奈川県川崎市に隣接しています。また、市の面積は21.58km<sup>2</sup>であり、東京都の約1%に該当します。



出典：調布市広報課資料

図 1-1 調布市の位置

#### (2) 交通環境

調布市には、広域交通機能として市の中央部を東西に走る京王線（9 駅）、国道 20 号線（甲州街道）、中央自動車道があり、都心や近隣市に対してアクセスのしやすい環境にあります。

また、京王線調布駅の1日の平均乗降人員は、98,916人（令和3（2021）年度）となっています。

#### (3) 地勢

調布市は武蔵野台地の南部に位置し、深大寺の森や多摩川等、豊かな自然に恵まれています。市内で最も標高が高い地点は深大寺北町6丁目付近（海拔56m）、低い地点は染地3丁目の多摩川沿い（海拔24m）であり、高低差は約32mとなっています。

## 1.2 都市構造

### (1) 都市的地域の変遷

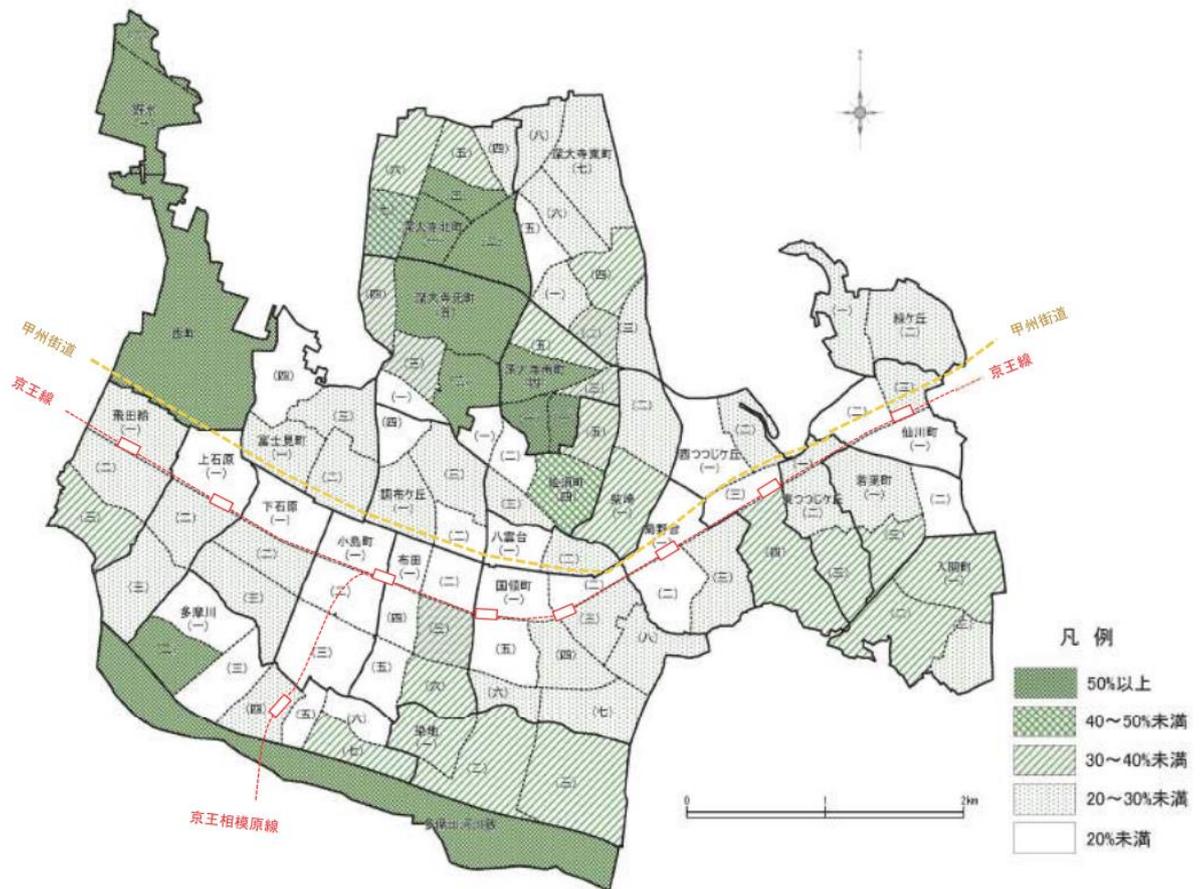
調布市は、昭和 30（1955）年 4 月に調布町と神代町が合併して誕生し、昭和 30（1955）年代後半から昭和 40（1965）年代における高度経済成長期において、都市化及び人口増加が進み、都心のベッドタウンとして発展を遂げてきました。

近年では、平成 24（2012）年 8 月に京王線の地下化が実現し、調布のまちの都市構造は大きな変貌を遂げました。地下化に連動した南北一体のまちづくりを進める中で、平成 29（2017）年 9 月には調布駅前にシネマコンプレックスを含む複合商業施設が開業するなど、商業的な一大転換期を迎え、市内外から多くの方が調布のまちを訪れ、新たなにぎわいが創出されています。

### (2) 緑被地の分布状況

調布市全体の緑被地（植物に覆われた土地）の面積は、令和元年（2019）年 9 月時点で 652.90ha、緑被率（市域面積に対する緑被地の割合）は 30.3%となっており、都立神代植物公園などが存在する北部で最も高い値をとっています。

また、緑被率に河川等の水面面積の占める割合と公園内で樹林等の緑に覆われていない面積の割合を加えたみどり率は、34.1%となっています。



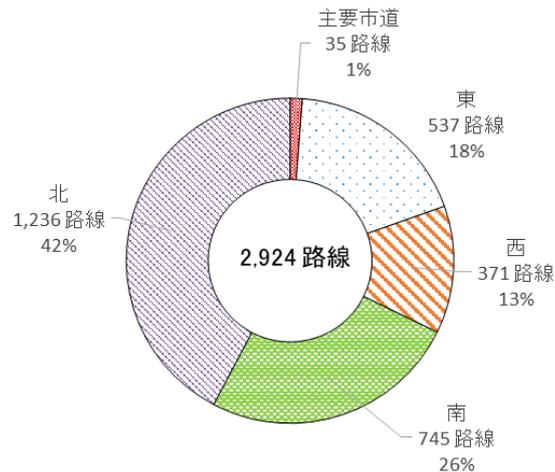
出典：調布市緑の基本計画（令和 3（2021）年 3 月）調布市

図 1-2 町丁目別のみどり率

## 1.3 道路交通状況

### (1) 主要市道，一般市道

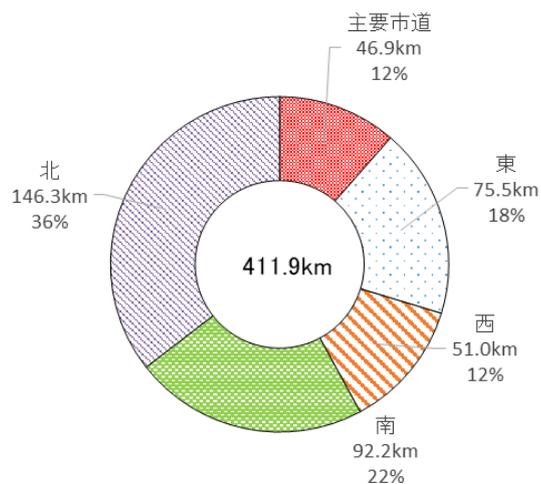
調布市の市道は、総数 2,924 の路線があり、そのうち幹線道路である主要市道は 35 路線（1%）となっています。一般市道は、東西南北を用いた路線名称により管理を行っており、市道北が 1,236 路線（42%）と最も多く、次いで市道南が 745 路線（26%）、市道東が 537 路線（18%）、市道西が 371 路線（13%）となっています。



出典：「市道路線認定調書（令和 3（2021）年 3 月 31 日現在）」調布市

図 1-3 市道路線の内訳(路線数)

道路の延長に着目すると、市道の総延長は 411.9km であり、そのうち主要市道は 46.9km（12%）となっています。一般市道では、市道北が 146.3km（36%）と最も延長が長く、次いで市道南が 92.2km（22%）、市道東が 75.5km（18%）、市道西が 51.0km（12%）となっています。



出典：「市道路線認定調書（令和 3（2021）年 3 月 31 日現在）」調布市

図 1-4 市道路線の内訳(延長)

(2) 災害時重要路線

災害時の緊急輸送道路として、以下の路線が指定されています。

表 1-1 調布市内の緊急輸送道路

区分	名称
第一次	甲州街道
	三鷹通り
	東八道路
	天文台通り
	大沢グラウンド通り
第二次	武蔵境通り
	神代植物公園通り (主要市道 6 号線)
	鶴川街道
	品川通り (主要市道 12 号線)
	主要市道 34 号線
	旧甲州街道
	狛江通り
	日向通り (主要市道 31 号線)
松原通り	
スタジアム通り (主要市道 32 号線)	
第三次	上ノ原通り (主要市道 10 号線)

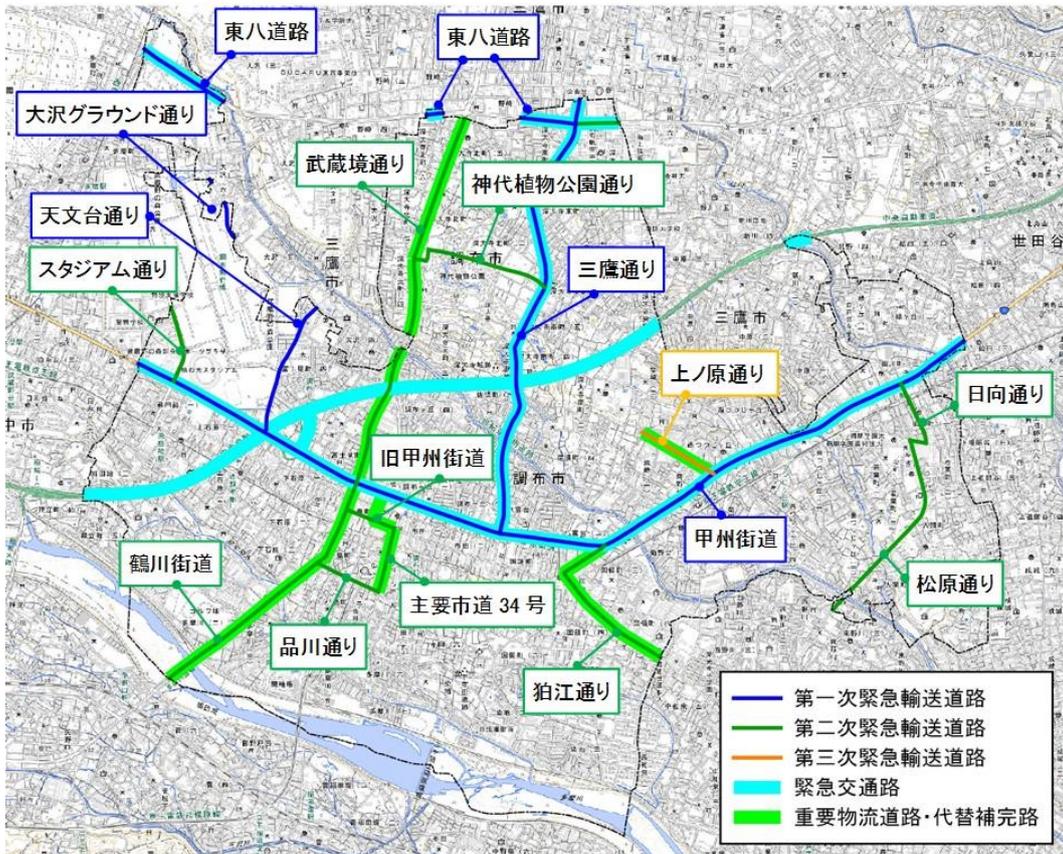
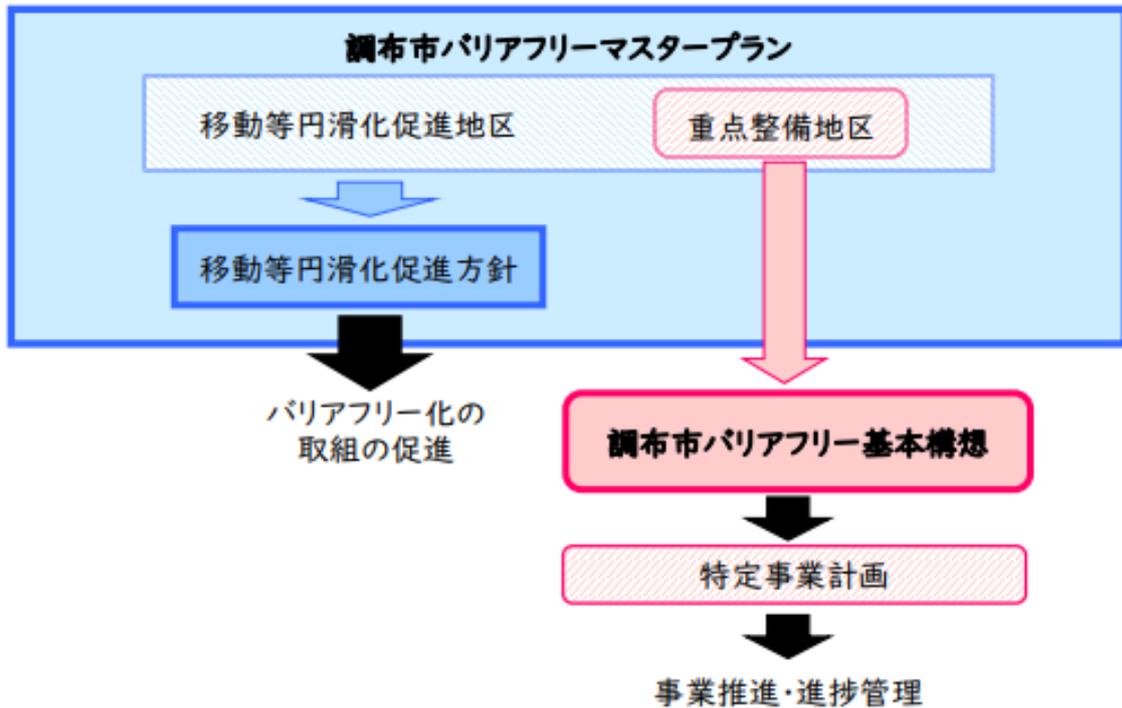


図 1-5 調布市内の緊急輸送道路等

### (3) バリアフリーのまちづくり

調布市では、バリアフリーのまちづくりに向けた更なる取組の推進のため、改正バリアフリー法に基づき、地区設定や移動等円滑化の促進に関する事項について定める「調布市バリアフリーマスタープラン」と令和3（2021）年度以降の移動等円滑化に向けた具体的な事業を位置づける「調布市バリアフリー基本構想」を策定しています。



出典：「調布市バリアフリーマスタープラン（令和4（2022）年4月）」調布市

図 1-6 マスタープラン及び基本構想の枠組み

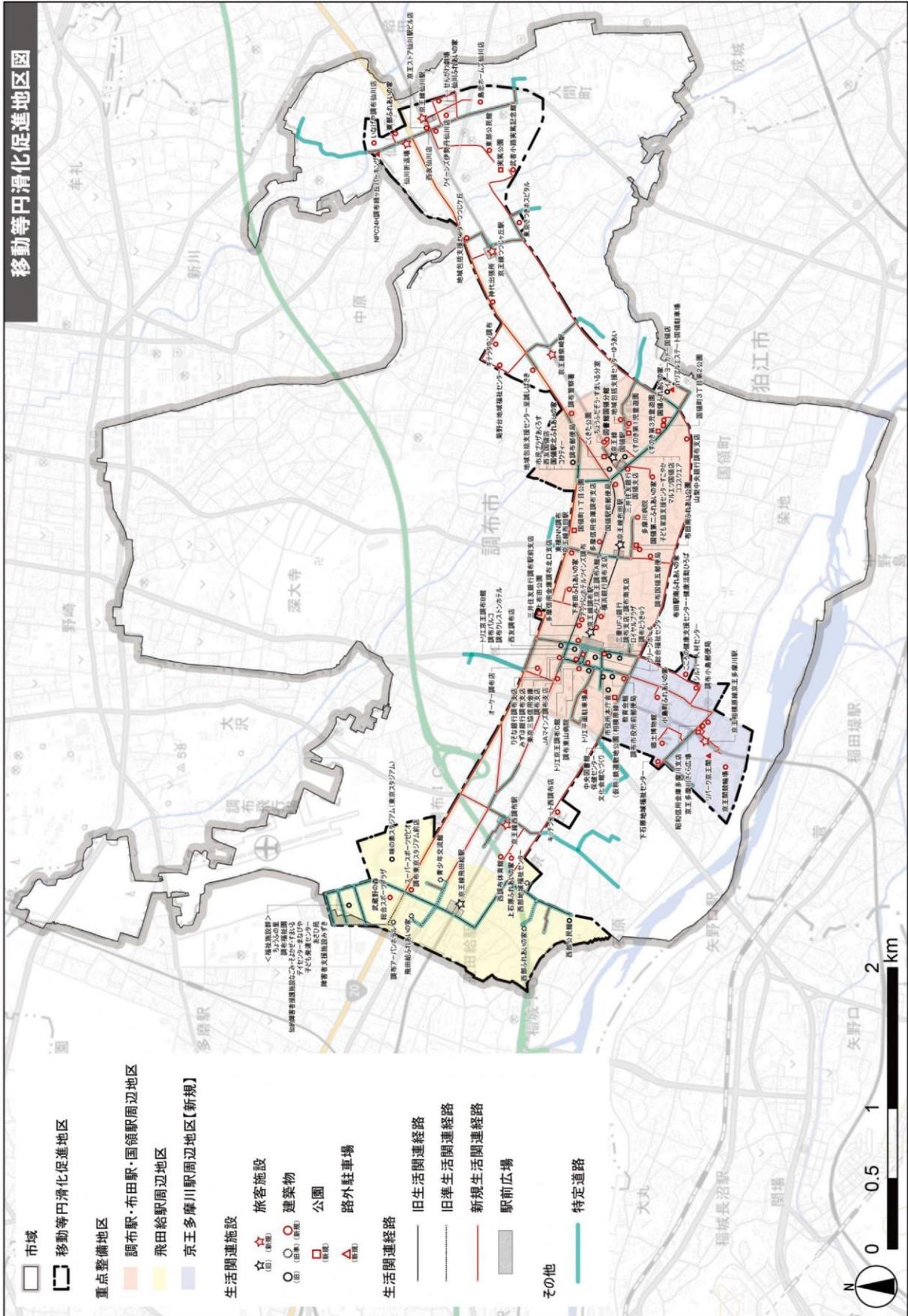


図 1-7 移動等円滑化促進地区図

出典：「調布市バリアフリーマスタープラン（令和4（2022）年4月）」調布市

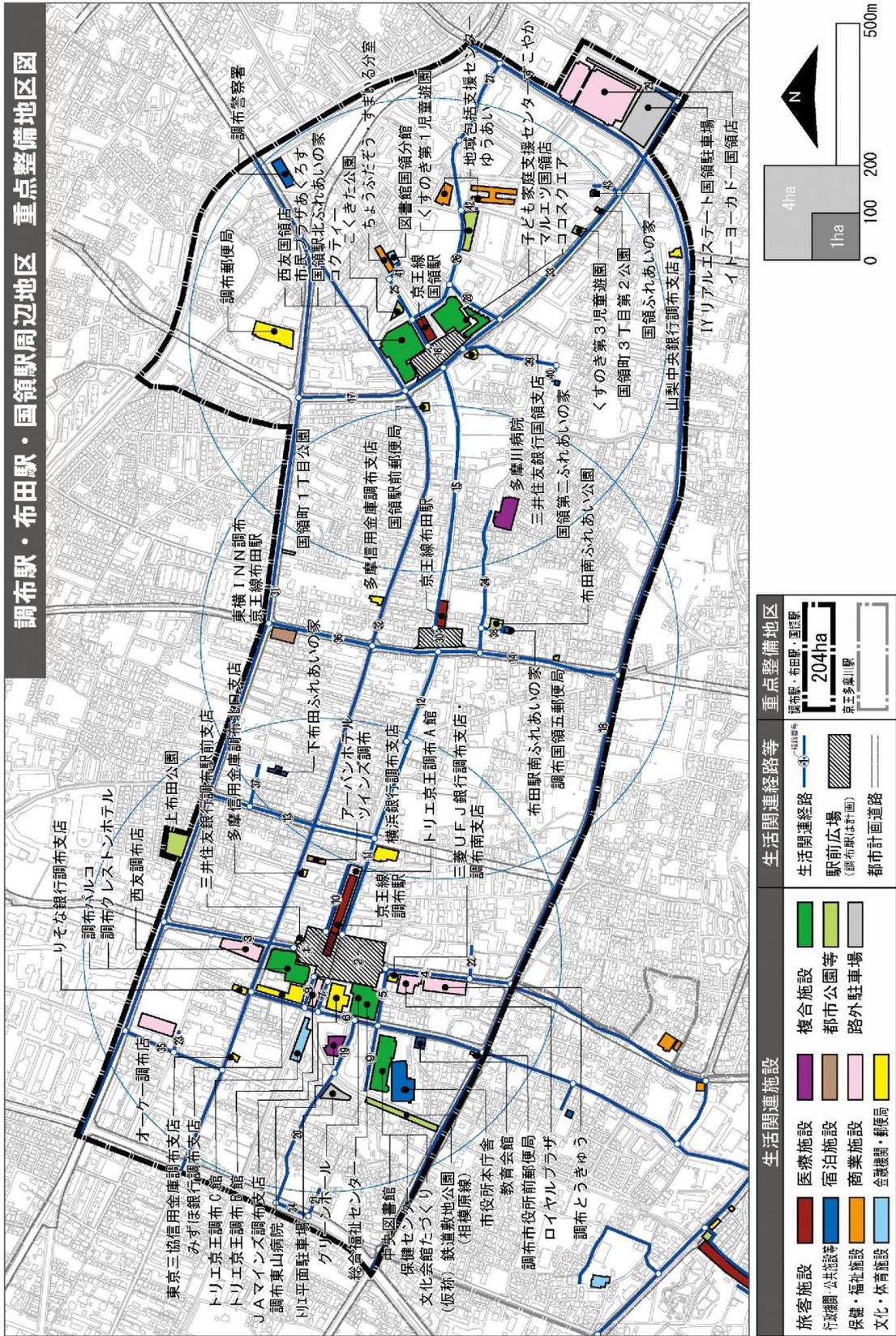
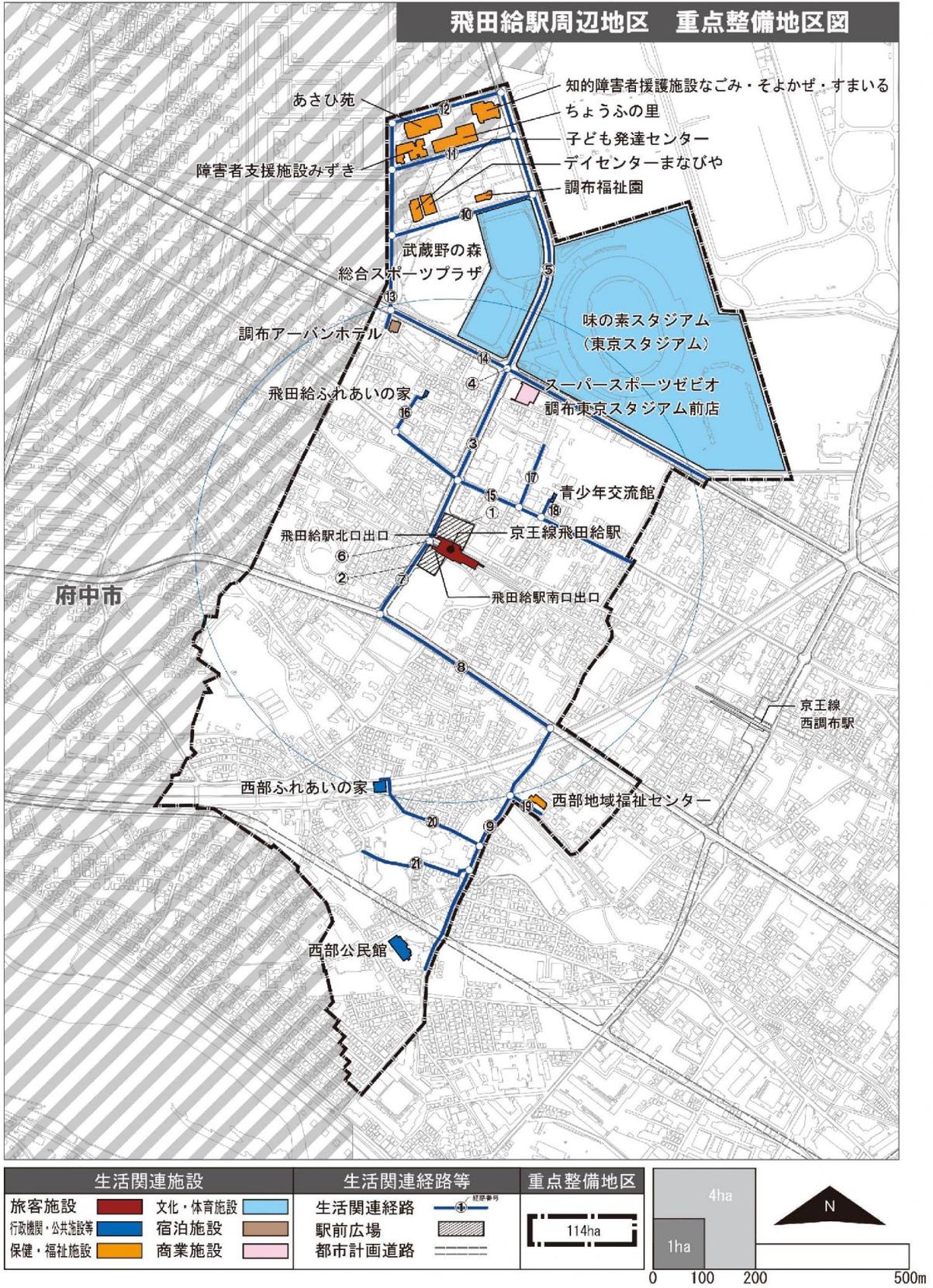
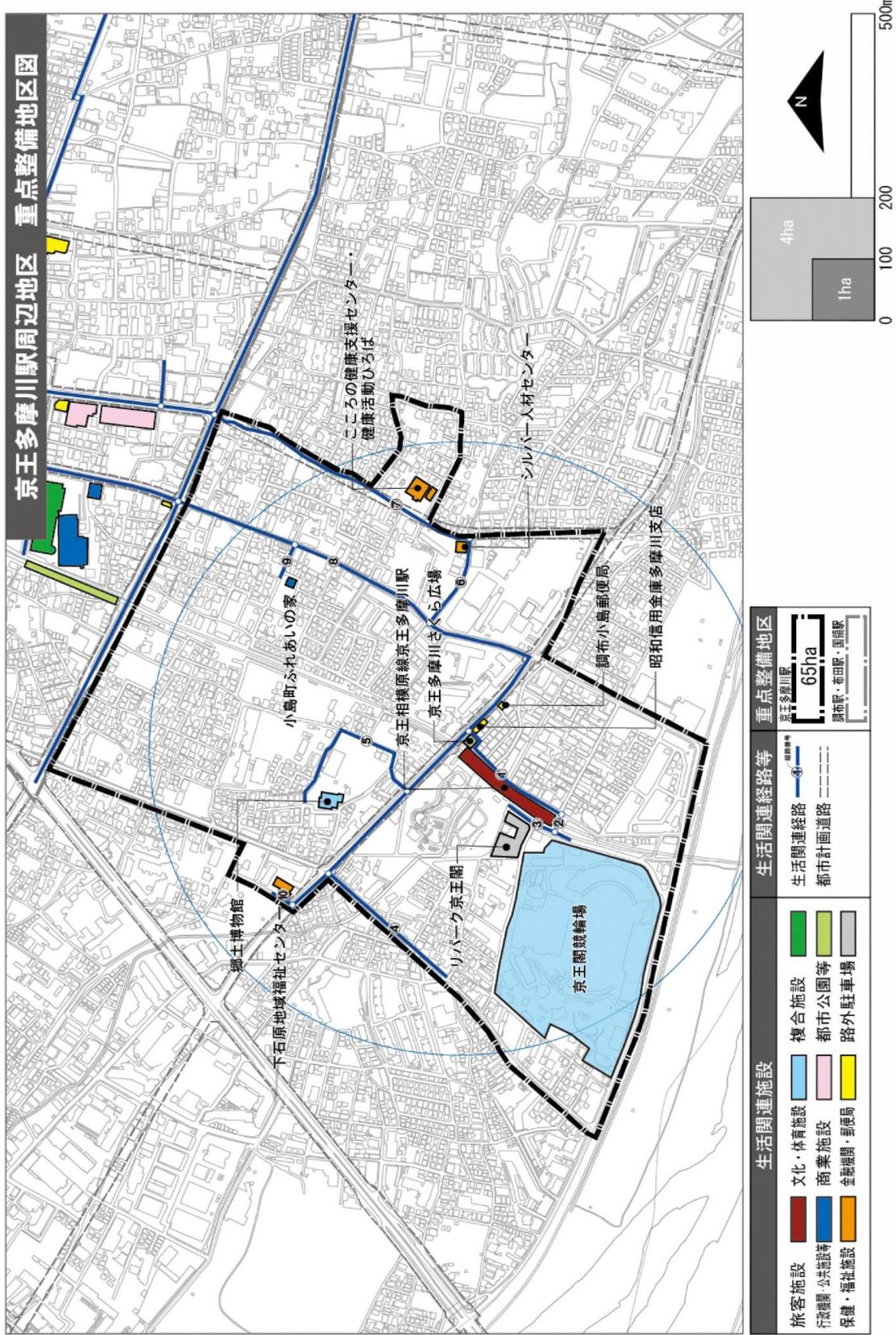


図 1-8 重点整備地区図(調布駅・布田駅・国領駅周辺地区)

出典：「調布市バリアフリー基本構想（令和4（2022）年4月）」調布市



出典：「調布市バリアフリー基本構想（令和4（2022）年4月）」調布市  
 図 1-9 重点整備地区図（飛田給駅周辺地区）



出典：「調布市バリアフリー基本構想（令和4（2022）年4月）」調布市

(4) 自転車通行空間

調布市では、歩行者、自転車、自動車が、ともに安全で安心して通行できる交通環境を実現するため、自転車利用の多い地域の状況や利用実態を踏まえ、自転車通行空間の整備を進めています。



自転車通行帯（自転車レーン）  
スタジアム通り



車道混在（自転車ナビライン）  
品川通り



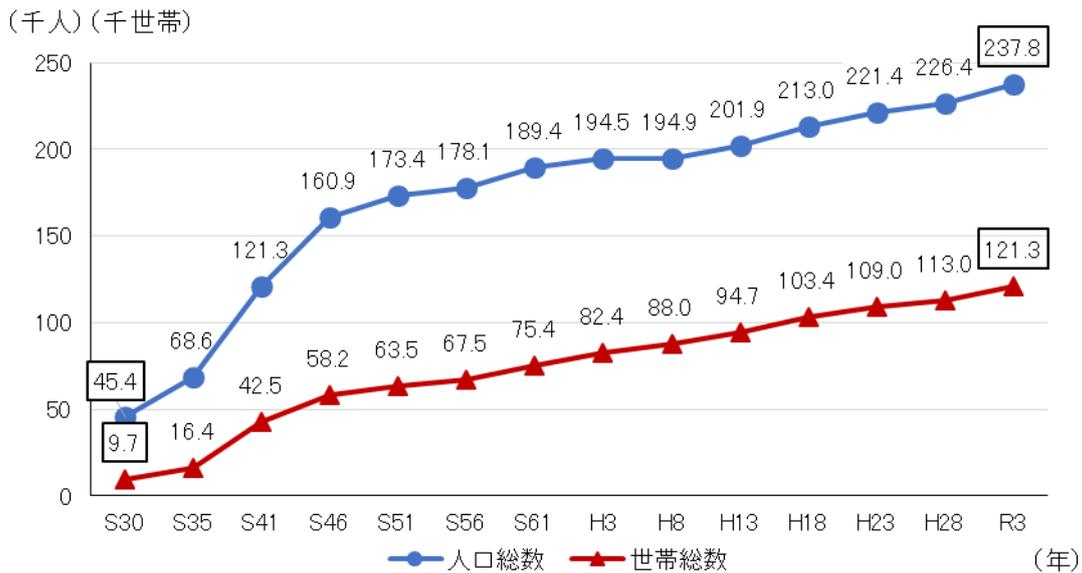
自転車歩行者道（視覚的分離）  
品川通り

図 1-11 自転車通行空間

## 第2章. 人口の状況

### 2.1 人口総数及び世帯総数

令和4（2022）年1月時点における調布市の人口総数は約23.7万人、世帯総数は約12万世帯となっています。人口、世帯総数ともに、高度経済成長期である昭和38（1963）年～昭和48（1973）年頃に大幅に増加し、市制施行時の昭和30（1955）年から令和3（2021）年までの66年間で人口総数は約5.2倍、世帯総数は約12.5倍に増加しています。

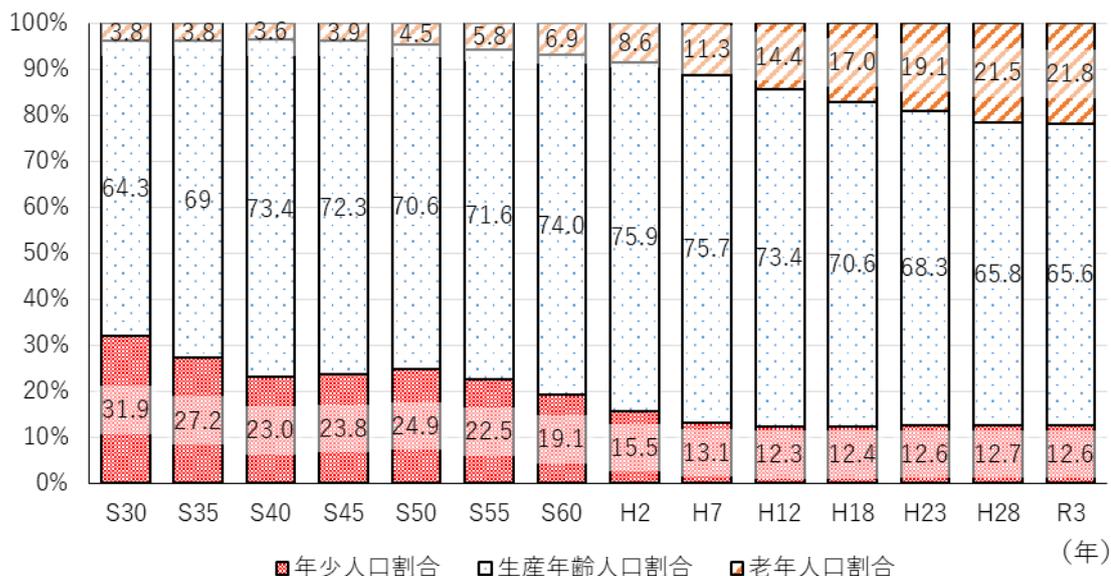


出典：「調布市統計書 住民基本台帳人口及び外国人登録人口」（令和4（2022）年1月）

図 1-12 人口総数及び世帯総数の推移

## 2.2 年齢構造別人口

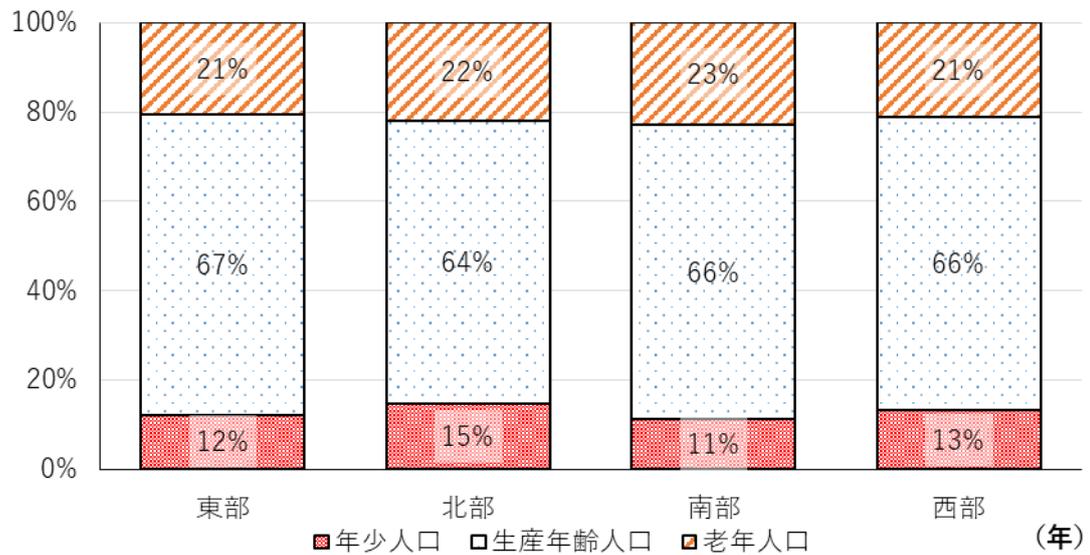
調布市の総人口について、年齢（3区分）別人口の割合（年少：0～14歳，生産年齢：15～64歳，老年：65歳以上）に着目すると、令和3（2021）年1月時点で生産年齢人口が65.6%と最も多く、次いで老年人口が21.8%、年少人口が12.6%となっています。昭和30（1955）年以降、生産年齢は約65～75%を推移し、3区分のうち最も高い割合を占めています。一方、年少及び老年人口については、平成7（1995）年までは年少人口が老年人口を上回っていましたが平成12（2000）年以降に逆転し、その後年少人口は横ばいであるのに対し、老年人口は毎年増加の傾向がみられます。



出典：調布市統計書 年齢（3区分）別人口の推移（日本人）（令和4（2022）年1月）

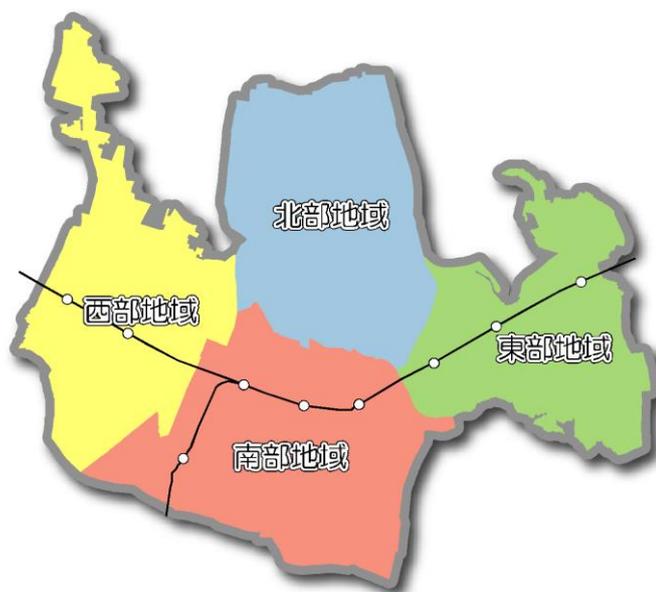
図 1-13 年齢(3区分)別人口構成比の推移

年齢（3区分）別人口について、地域別（広域的地域：4区分）の割合を見ると、年齢構造の内訳は、地域間で大きな差は見られませんが、生産年齢人口の割合は東部、年少人口の割合は北部、老年人口の割合は南部が最も多くなっています。



出典：「調布市統計書 町別、年齢（5歳階級）、男女別人口（日本人）」（令和4（2022）年1月）

図 1-14 年齢（3区分）別人口分布（広域的地域：4区分）



出典：「調布市地域別街づくり方針」（平成22（2010）年3月）調布市

図 1-15 調布市の地域区分

表 1-2 調布市の地域区分詳細

東部地域	西部地域	南部地域	北部地域
西つつじヶ丘1～4丁目	野水1, 2丁目	調布ヶ丘1, 2丁目	深大寺北町1～7丁目
東つつじヶ丘1～3丁目	西町	八雲台1, 2丁目	深大寺元町1～5丁目
菊野台1～3丁目	富士見町1～4丁目	小島町1～3丁目	深大寺東町1～8丁目
緑ヶ丘1, 2丁目	飛田給1～3丁目	布田1～6丁目	深大寺南町1～5丁目
仙川町1～3丁目	上石原1～3丁目	国領町1～8丁目	佐須町1～5丁目
若葉町1～3丁目	下石原1～3丁目	染地1～3丁目	調布ヶ丘3, 4丁目
入間町1～3丁目	多摩川1, 2丁目	多摩川3～7丁目	柴崎1, 2丁目

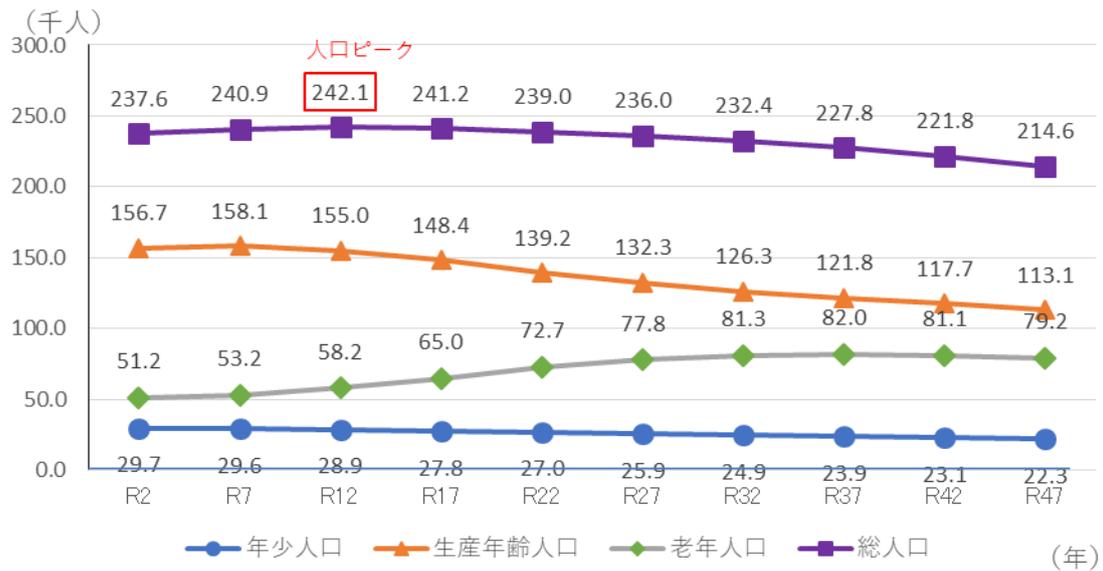
出典：「調布市地域別街づくり方針」（平成22（2010）年3月）調布市

## 2.3 人口の将来推計

### (1) 総人口の将来的な変化

調布市の将来人口について、総人口は、令和12(2030)年の約24.2万人をピークに増加傾向がみられますが、それ以降は減少傾向にあり、令和47(2065)年には約21.5万人まで減少すると推定されています。

年齢(3区分)別人口に着目すると、生産年齢及び年少人口は令和7(2025)年までは増加し、それ以降は減少傾向がみられますが、老年人口については継続的に増加傾向がみられ、令和47(2065)年には約7.9万人まで増加することが推定されています。

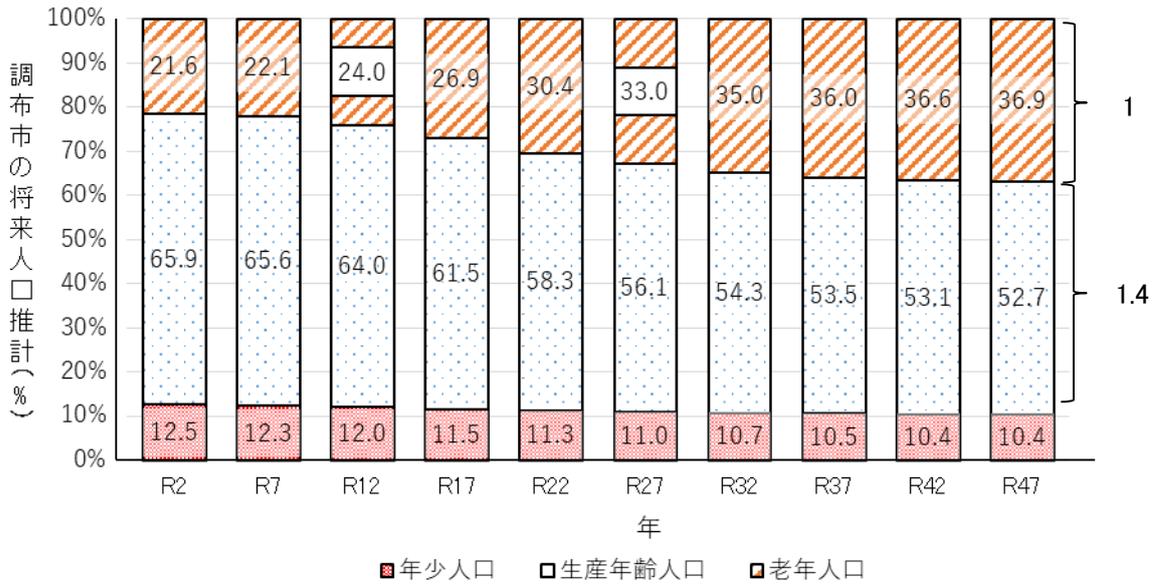


出典：「調布市の将来人口推計」(令和4(2022)年3月)調布市

図 1-16 総人口及び年齢(3区分)別人口の将来推計

(2) 年齢構造別人口の将来的な変化

年齢（3区分）別人口構成比の将来推計は、令和2（2020）年以降、生産年齢は減少していく一方で、老年人口は増加の一途を辿り、令和12（2030）年には総人口の約4人に1人、令和27（2045）年には約3人に1人を高齢者が占めると推定されています。令和47（2065）年には生産年齢が約52.7%、老年人口が約36.9%となり、老年人口1人を生産年齢1.4人で支えることが想定されます。



出典：「調布市の将来人口推計」（令和4（2022）年3月）調布市

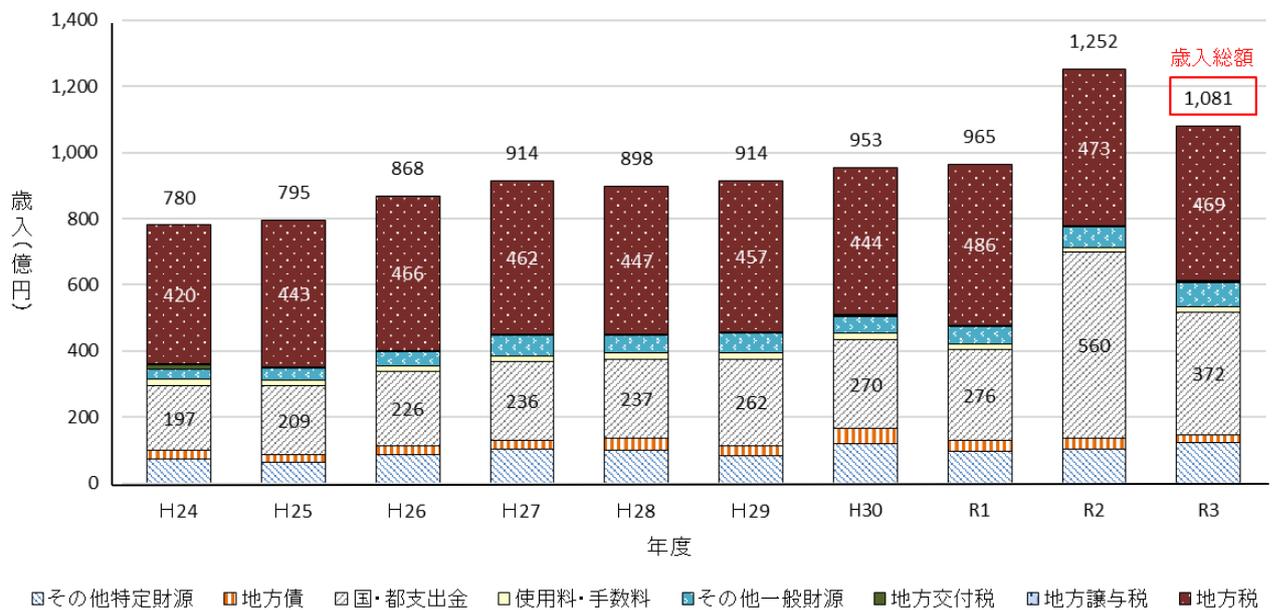
図 1-17 年齢(3区分)別人口構成比の将来推計

## 第3章. 財政の状況

### 3.1 歳入・歳出

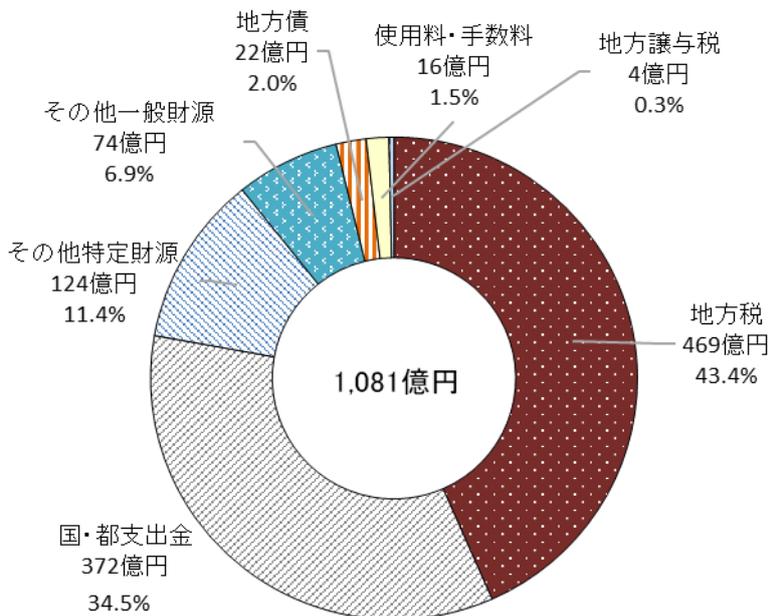
#### (1) 歳入の推移（普通会計ベース）

調布市の歳入総額は約 1,081 億円（令和 3（2021）年度決算）であり、内訳としては地方税が 43.4%と最も多く、次いで国・都支出金が 34.5%を占めています。平成 24（2012）年度（歳入総額約 780 億円）と比較すると、歳入総額が 38.5%，地方税が 11.6%，国・都支出金が 89.3%増加しています。



出典：「普通会計決算の概要」（調布市：平成 24（2012）年度～令和 3（2021）年度）東京都総務局

図 1-18 歳入額の推移

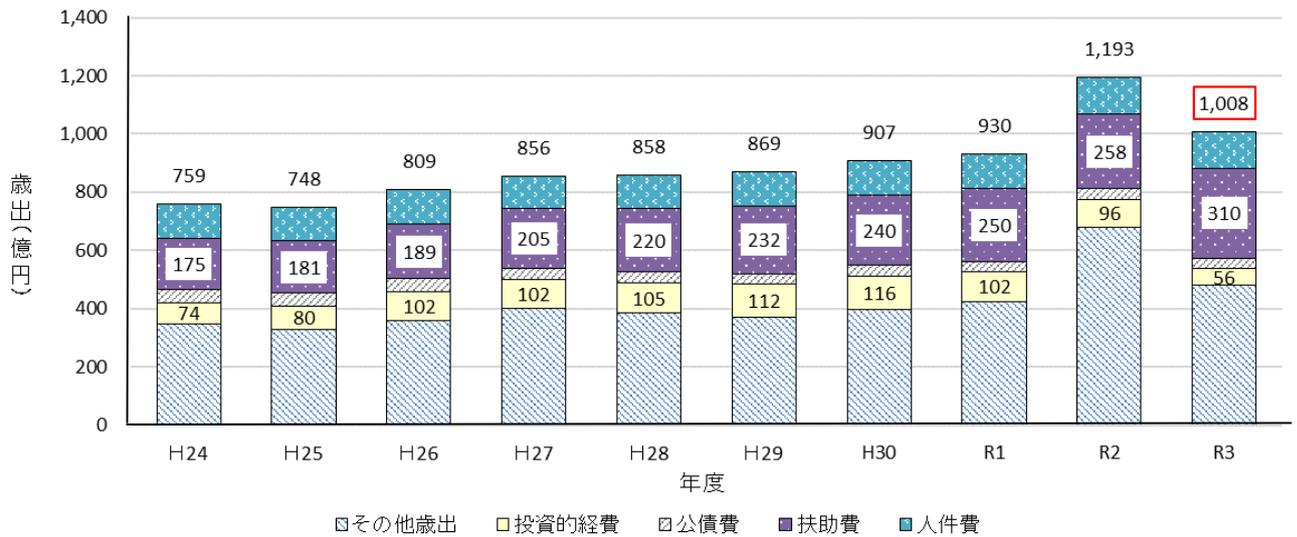


出典：「普通会計決算の概要」（調布市：平成 24（2012）年度～令和 3（2021）年度）東京都総務局

図 1-19 令和 3(2021)年度における歳入額の内訳

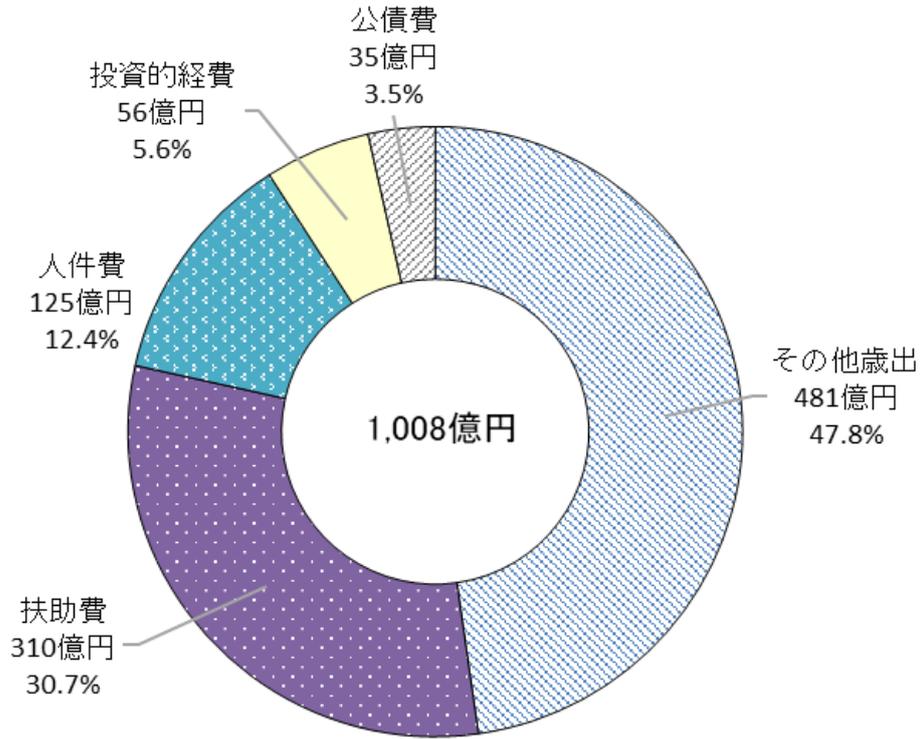
## (2) 歳出の推移（普通会計ベース）

調布市の歳出総額は約 1,008 億円（令和 3（2021）年度決算）であり、内訳としては扶助費（福祉や生活保護など社会保障に要する経費）が 30.7%、人件費が 12.5%を占めています。平成 24（2012）年度（歳出総額約 759 億円）と比較すると、歳出総額が 32.8%、扶助費が 77.1%、人件費が 5.6%増加しています。



出典：「普通会計決算の概要」（調布市：平成 24（2012）年度～令和 3（2021）年度）東京都総務局

図 1-20 歳出額の推移



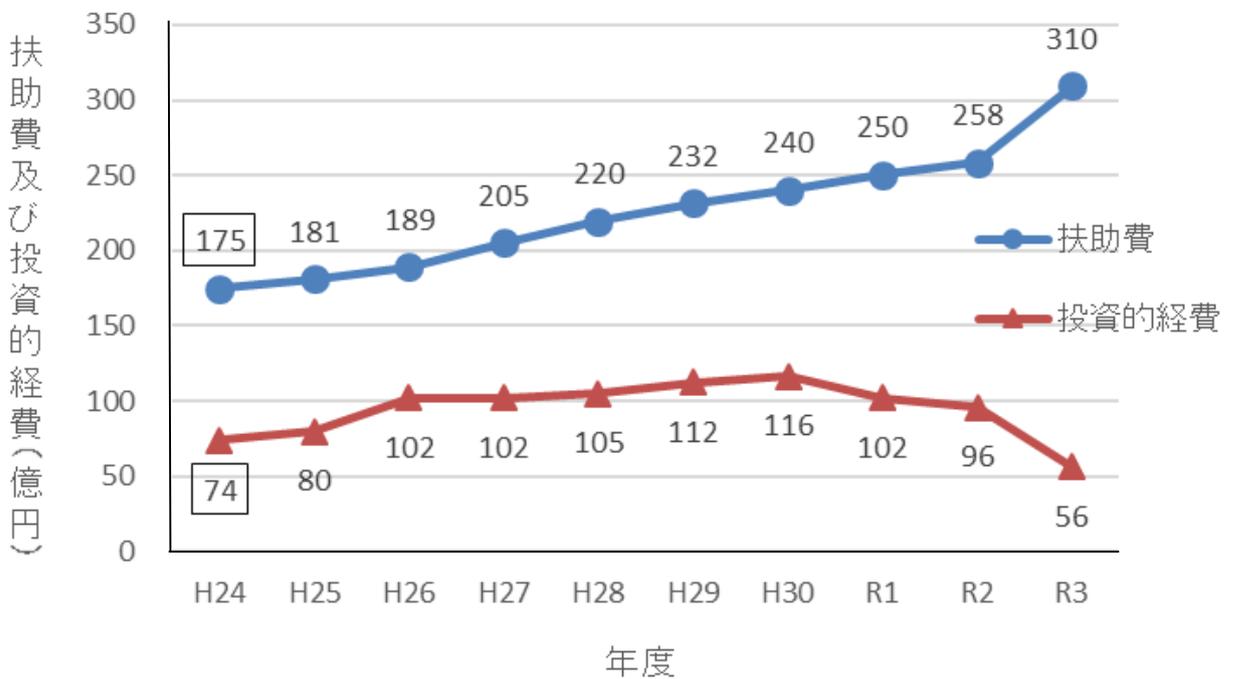
出典：「普通会計決算の概要」（調布市：平成24（2012）年度～令和3（2021）年度）東京都総務局

図 1-21 令和3(2021)年度における歳出額の内訳

## (3) 扶助費及び投資的経費の推移（普通会計ベース）

令和3（2021）年度決算において、扶助費は約310億円となっており、平成24（2012）年度（約175億円）と比較して約76.9%増加しています。扶助費の上昇傾向が続いている理由としては、市における社会保障関係経費や保育園関係経費等の増加によるものと考えられます。

一方、投資的経費（うち普通建設事業費）については、令和3（2021）年度決算において約56億円となっており、平成24（2012）年度（約74億円）と比較して約24.1%減少しています。



出典：「普通会計決算の概要」（調布市：平成24（2012）年度～令和3（2021）年度）東京都総務局

図 1-22 扶助費及び投資的経費の推移

(4) 目的別予算の推移

令和4（2022）年度予算は総額約953億円であり、内訳としては民生費が53.0%、教育費が11.3%、総務費が10.9%を占めています。平成25（2013）年度（予算総額約771億円）と比較すると、23.6%増加しています。

表 1-3 目的別予算の推移

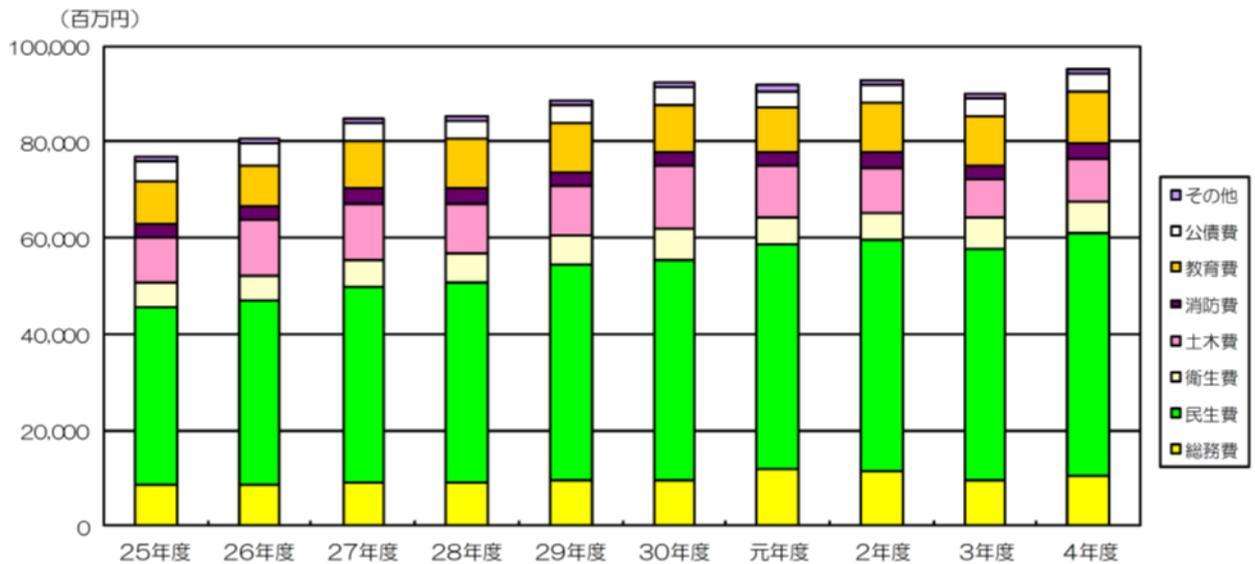
単位：百万円

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
合計	77,110	80,736	84,970	85,360	88,650	92,540	91,810	92,990	90,120	95,270
総務費	8,573	8,649	9,040	8,946	9,244	9,317	11,835	11,112	9,672	10,401
民生費	36,750	38,449	40,894	41,969	45,153	46,004	47,005	48,544	48,143	50,488
衛生費	5,140	5,105	5,424	6,090	5,899	6,718	5,534	5,567	6,594	6,724
土木費	9,685	11,626	11,855	10,221	10,590	13,135	10,617	9,535	7,769	9,022
消防費	2,791	2,793	3,159	3,228	2,932	2,909	2,835	2,973	2,849	2,885
教育費	8,701	8,628	9,776	10,222	10,053	9,723	9,320	10,465	10,329	10,806
公債費	4,377	4,406	3,706	3,613	3,661	3,595	3,428	3,568	3,560	3,724
その他	1,093	1,080	1,115	1,071	1,117	1,139	1,236	1,227	1,204	1,221

(参考) 総務費/民生費/衛生費/土木費/教育費の構成比の推移 ※令和4年度当初予算の構成比の大きい順で掲載

民生費	47.7%	47.6%	48.1%	49.2%	50.9%	49.7%	51.2%	52.2%	53.4%	53.0%
教育費	11.3%	10.7%	11.5%	12.0%	11.3%	10.5%	10.1%	11.3%	11.5%	11.3%
総務費	11.1%	10.7%	10.6%	10.5%	10.4%	10.1%	12.9%	11.9%	10.7%	10.9%
土木費	12.6%	14.4%	14.0%	12.0%	11.9%	14.2%	11.6%	10.3%	8.6%	9.5%
衛生費	6.7%	6.3%	6.4%	7.1%	6.7%	7.3%	6.0%	6.0%	7.3%	7.1%

出典：「令和4（2022）年度市政経営の概要」調布市



出典：「令和4（2022）年度市政経営の概要」調布市

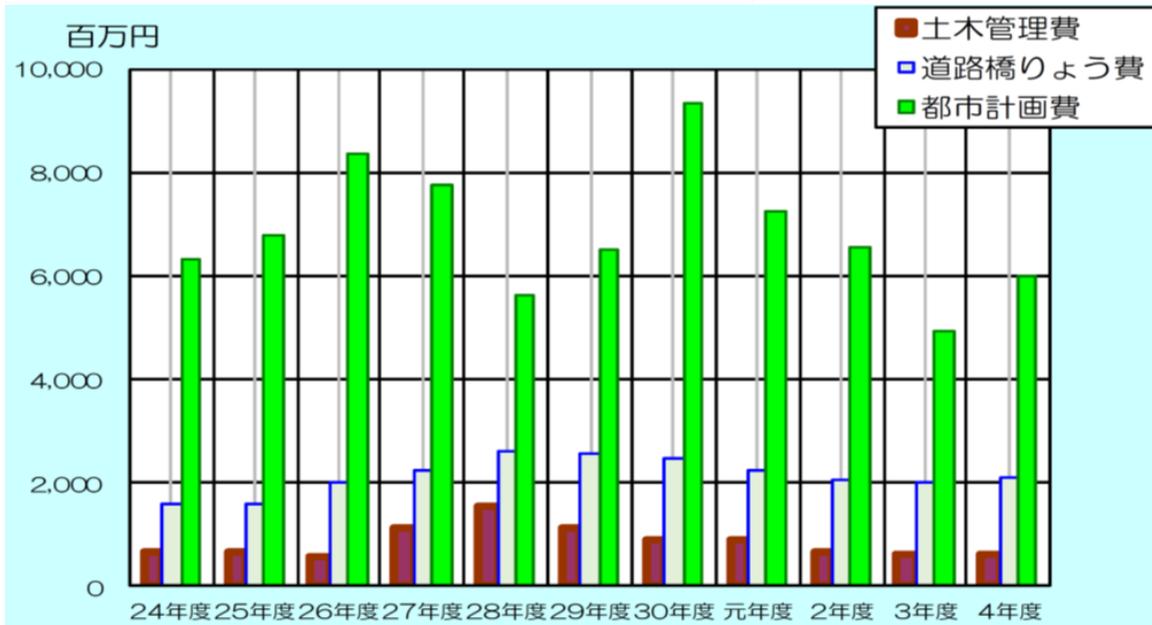
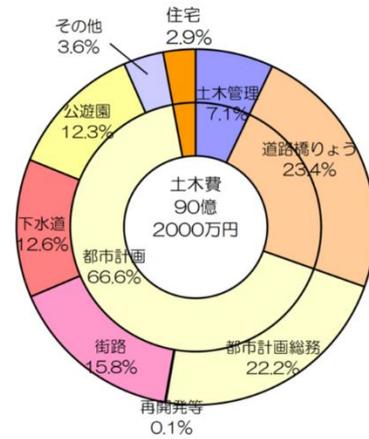
図 1-23 目的別予算の推移

(5) 土木費の推移

令和4(2022)年度予算は総額約90億円であり、内訳としては都市計画費が66.6%、道路橋りょう費が23.4%、土木管理費が7.1%を占めています。

単位：百万円

区分	4年度		3年度	増減額
土木費計	9,022	100.0%	7,769	1,253
土木管理費	634	7.1%	593	41
道路橋りょう費	2,113	23.4%	1,998	115
都市計画費	6,011	66.6%	4,917	1,094
都市計画総務費	2,005	22.2%	1,387	618
再開発・区画整理	8	0.1%	10	▲2
街路事業	1,429	15.8%	1,469	▲40
公共下水道費	1,134	12.6%	1,130	5
公遊園費	1,109	12.3%	619	490
その他	326	3.6%	303	23
住宅費	263	2.9%	261	2



出典：「令和4(2022)年度市政経営の概要」調布市

図 1-24 土木費の推移

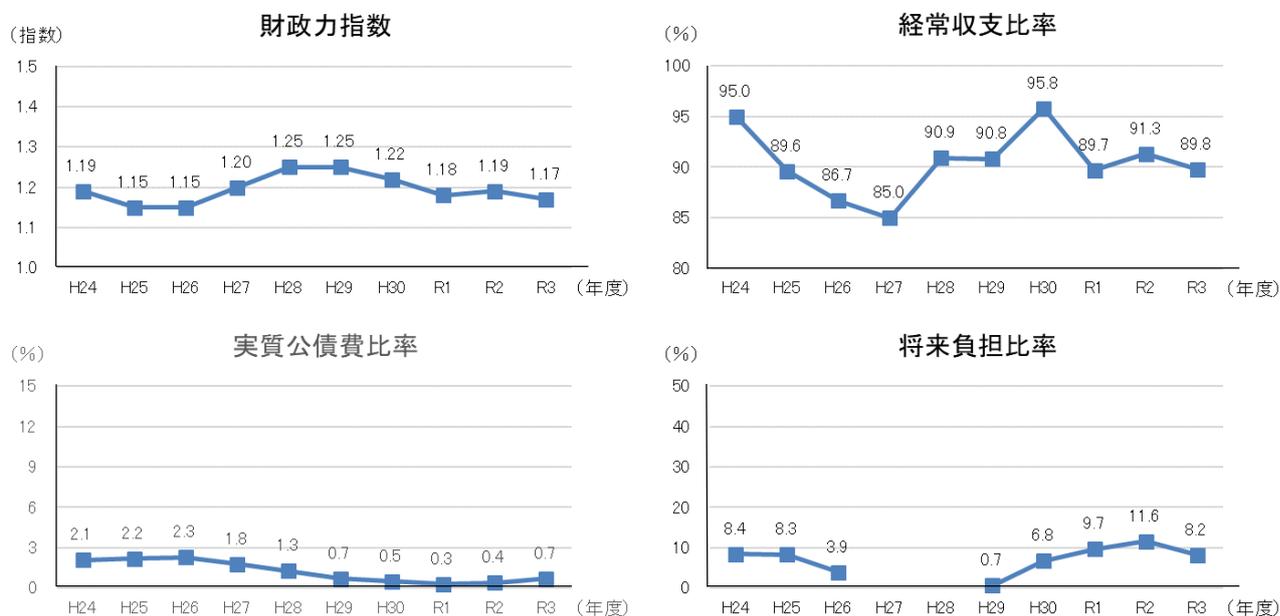
### 3.2 財政指標の推移

調布市の財政力指数は、令和3（2021）年度において1.17となっており、対前年度比0.02ポイント減少しています。

経常収支比率は、令和3（2021）年度において89.8%となっており、対前年度比1.5ポイント減少しています。

実質公債費比率は、令和3（2021）年度において0.7%となっており、対前年度比0.3ポイント増加しています。

将来負担比率は、令和3（2021）年度において8.2%となっており、対前年度比3.4ポイント減少しています。



出典：「普通会計決算の概要」（調布市：平成24（2012）年度～令和3（2021）年度）東京都総務局

図 1-25 財政指標の推移

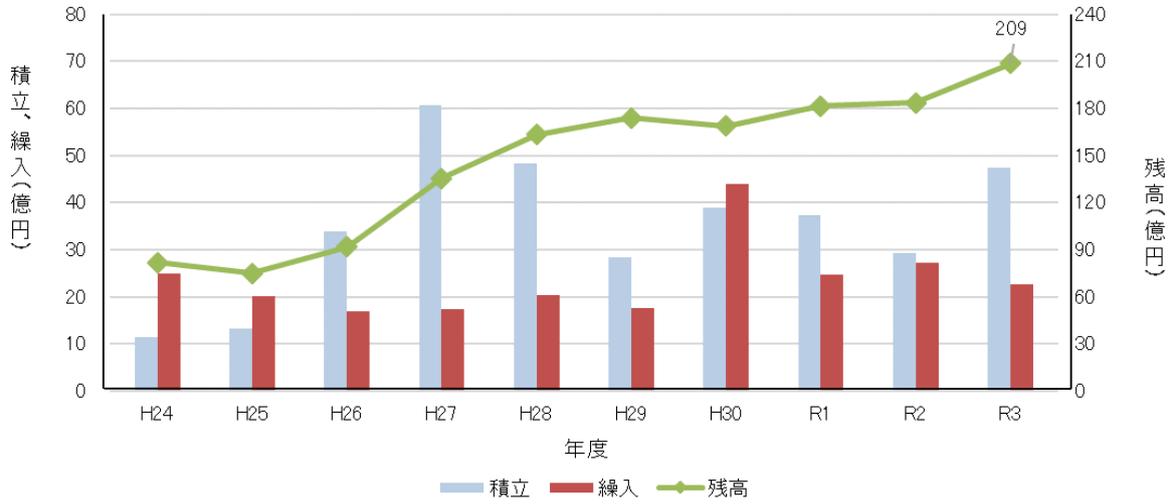
表 1-4 財政指標の解説

	解 説
財政力指数	交付税算定上の理論的な収入を支出で除した値で、過去3年間の平均を求めたもの。数値が高いほど自治体運営に余裕があり、1.0を超えると普通交付税の不交付団体となる。
経常収支比率	毎年度経常的に収入される市税などに対する、毎年度経常的に支出される人件費、扶助費、公債費等の割合。比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを示す。
実質公債費比率	自治体の財政規模に対する公債費等の割合の過去3年間の平均値。25%を超えると財政健全化計画の策定を義務付けられ、新たな起債の際に制限が加わる。
将来負担比率	自治体の財政規模に対する市債残高等の割合。市町村では350%を超えると財政健全化計画の策定を義務付けられ、新たな起債の際に制限が加わる。平成19（2007）年6月22日に公布された「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、平成19（2007）年度決算以降、算定・公表。

出典：「調布市公共施設白書」（平成28（2016）年3月）調布市

### 3.3 基金の積立及び残高の状況

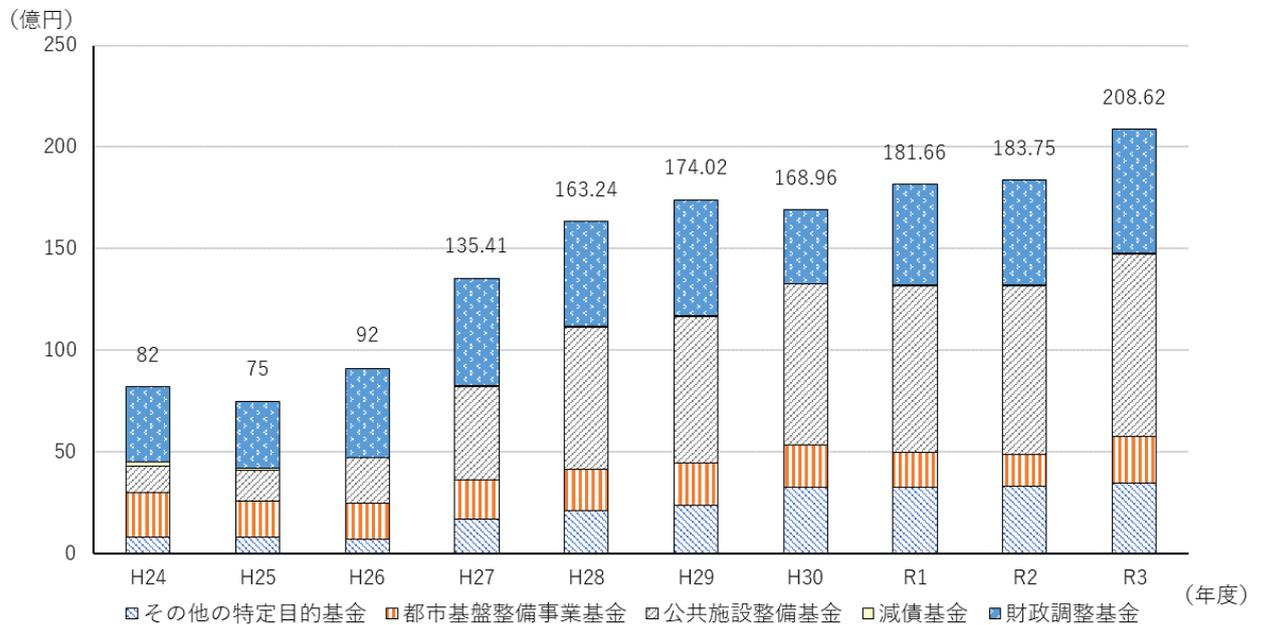
調布市の基金残高は、平成 26（2014）年度以降増加傾向が続き、令和 3（2021）年度は約 209 億円となっています。



出典：「令和 3（2021）年度調布市決算概要」調布市

図 1-26 基金残高等の推移

基金残高の内訳として、年度間の財源調整を目的とした財政調整基金のほか、公共施設の維持保全や中心市街地の街づくり等の都市基盤整備、社会福祉の増進等を目的とした各種の特定目的基金があり、令和3（2021）年度の基金残高は約209億円となっています。

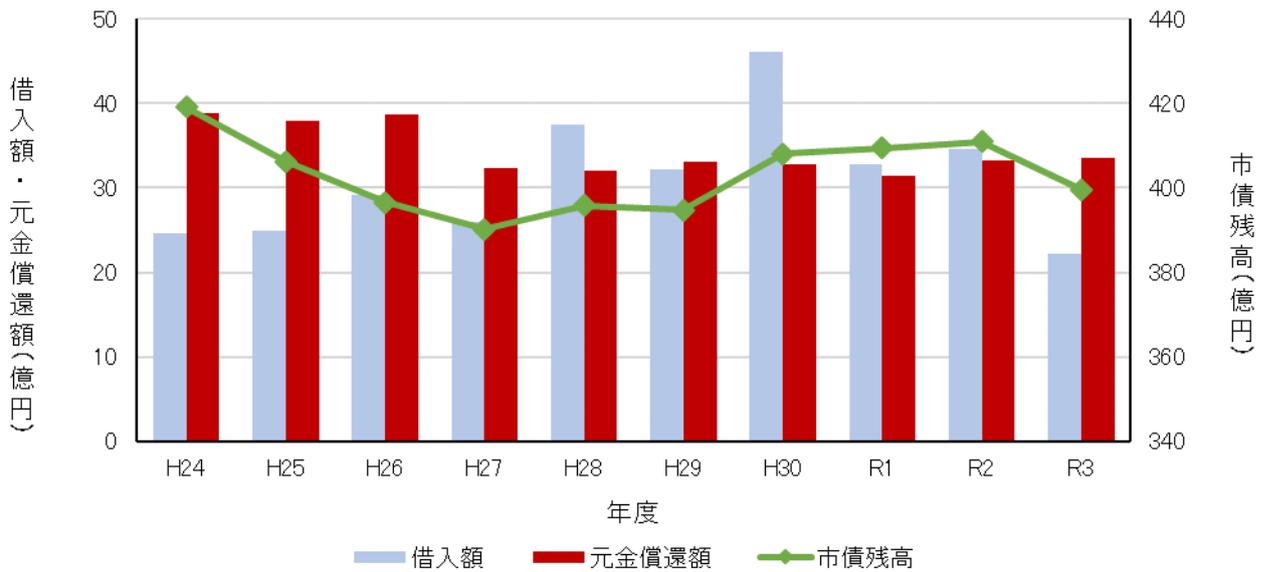


出典：「令和3（2021）年度調布市決算概要」調布市

図 1-27 基金残高の内訳の推移

### 3.4 市債の状況

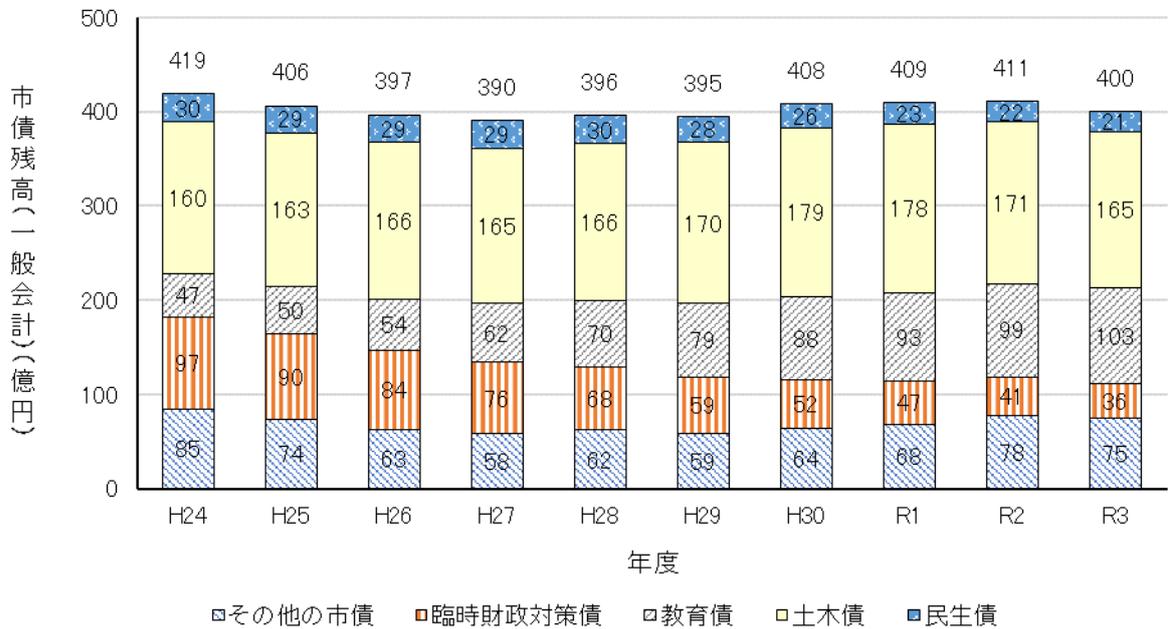
調布市の一般会計における市債残高は、令和3（2021）年度において約400億円となっており、前年度比約11億円減少しています。市債は、世代間負担の公平化を図ることを目的に、主として公共施設の整備等に対する財源の一部として借入れられており、平成24（2012）年度以降の市債残高は概ね400~420億円程度で推移しています。



出典：「令和3（2021）年度調布市決算概要」調布市

図 1-28 市債残高(一般会計)の推移

市債残高の令和3（2021）年度の内訳は、土木債が約165億円と最も高い割合を占めており、次いで教育費が約103億円となっています。



出典：「市債現在高（一般会計）」（令和5（2023）年1月）調布市

図 1-29 市債残高（一般会計）の内訳の推移

